

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	E S A 音楽学院専門学校
設置者名	学校法人八洲学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
文化教養課程	吹奏楽学科 管楽器リペアコース (リペア選択)	夜・通信	216	160	
	吹奏楽学科 管楽器リペアコース (留学選択)	夜・通信	216	160	
	吹奏楽学科 吹奏楽コース (公務員選択)	夜・通信	180	160	
	吹奏楽学科 吹奏楽コース (留学選択)	夜・通信	180	160	
	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース (リペア選択)	夜・通信	108	80	
	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース (留学選択)	夜・通信	90	80	
	吹奏楽実務学科 吹奏楽コース (公務員選択)	夜・通信	108	80	
	吹奏楽実務学科 吹奏楽コース (留学選択)	夜・通信	108	80	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.esa-music.com/src/5365/kyouin.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	E S A 音楽学院専門学校
設置者名	学校法人八洲学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://yashima.ac.jp/?page_id=44

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	2017.4.1～ 2021.3.31	評議員
非常勤	会社役員	2017.4.1～ 2021.3.31	評議員
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	E S A 音楽学院専門学校
設置者名	学校法人八洲学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>講義科目については教材となっている書籍を元に全員が到達目標に到達できるよう授業を計画しており、内容の修得度を確認するために各期末に試験を行う。各期末試験を実施しない科目については講義中に確認小テストが行われる。科目の中には演習や実習を伴う科目もあり、それらに関しては個々の修得度・進捗度に合わせて進められるよう計画をしている。</p> <p>演習科目については、実習科目と関連性の高い科目については実習科目の授業計画と連動するよう授業を計画している。それ以外の演習科目については到達目標に全員が到達できるようテキスト学習及び演習の授業を行う計画している。内容の習得度を確認するために各期末に試験を行う。各期末試験を実施しない科目については講義中に確認小テスト等が行われる。</p> <p>実習科目については、多くの科目が個別指導となっており、到達目標に全員が到達できるよう生徒それぞれ個別もしくはグループ別に授業を行う計画している。個々の習得度を確認するために各期末に試験を行う。各期末試験を実施しない科目については講義中に確認小テスト等の結果・演奏会等の参加が評価に加味される。</p> <p>作成したシラバスは、教務・副校長・校長の承認を得て4月のンガイダンスの際に生徒配布・インターネットホームページに公開。</p>	
授業計画書の公表方法	http://www.esa-music.com/information.html
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<p>履修認定に関しては、客観的・厳格かつ厳正に判定される</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出席率 ・ 筆記試験 ・ 実技試験 <p>により認定の可否が行われる。</p> <p>科目によって実施される試験の種類や時期が異なるため、各シラバスに掲載している。</p>	

3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

<成績評価基準>

出席率・筆記試験・実技試験

評価	出席率	筆記試験	実技試験
A	100～90	100～90	100～85
B	89～80	89～80	84～75
C	79～70	79～70	74～65
D	69～60	69～60	64～
E	59～	59～	未受験

E評価の履修は認定しない。

各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。

G P A算出方法

上記の成績評価基準に基づいた成績評価に応じた各科目のG Pを各科目の履修時間を乗算し、その合計を履修科目全履修時間で除算。(小数点第二位四捨五入)

成績評価基準に基いた成績評価に応じたG P表

成績評価	GP
A	4.0
B	3.0
C	2.0
D	1.0
E(不可)	0.0

上記算出方法によりG P Aを算出している。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<http://www.esa-music.com/src/4955/GPA.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学則第 17 条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。

学則第 18 条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。

卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の異議がなければ進級及び卒業を認めている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<http://www.esa-music.com/src/4954/evaluation%20criteria.pdf>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	E S A音楽学院専門学校
設置者名	学校法人八洲学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://yashima.ac.jp/?page_id=38
収支計算書又は損益計算書	https://yashima.ac.jp/?page_id=38
財産目録	https://yashima.ac.jp/?page_id=38
事業報告書	https://yashima.ac.jp/?page_id=38
監事による監査報告（書）	https://yashima.ac.jp/?page_id=38

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門	吹奏楽学科 管楽器リペアコース (リペア選択)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,268 単位時間/単位	612 単位時間	1,152 単位時間	504 単位時間	単位時間	単位時間
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人の内数		26人	0人	4人	7人	11人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。</p> <p>管楽器リペア技術習得を目指すコースであるため、多くの演習科目実習科目において生徒個々の習得度に合わせて授業が行われている。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>

成績評価の基準・方法			
(概要) <成績評価基準> 出席率・筆記試験・実技試験			
評価	出席率	筆記試験	実技試験
A	100～90	100～90	100～85
B	89～80	89～80	84～75
C	79～70	79～70	74～65
D	69～60	69～60	64～
E	59～	59～	未受験
E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 学則第 17 条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 学則第 18 条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。			
学修支援等			
(概要) 入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。 入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
11 人 (100%)	人 (%)	9 人 (90.9%)	2 人 (0.00%)
(主な就職、業界等) 楽器店			
(就職指導内容) 面談指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 管楽器リペア技術習得			
(備考) (任意記載事項) その他 2 名のうち 1 名は科目履修生として本校に在籍している			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23人	1人	8.7%
(中途退学の主な理由) ・不登校		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門	吹奏楽学科 管楽器リペアコース 留学選択	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,268 単位時間	900 単位時間	864 単位時間	504 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人の内数	0人	0人	2人	10人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
(概要) 各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。 管楽器リペア技術習得を目指すコースであるため、多くの演習科目実習科目において生徒個々の習得度に合わせて授業が行われている。 リペア留学選択者はリペア技術習得と合わせてフランス語の修得も行う。 技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。																								
成績評価の基準・方法																								
(概要) <成績評価基準> 出席率・筆記試験・実技試験																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>出席率</th> <th>筆記試験</th> <th>実技試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>100～90</td> <td>100～90</td> <td>100～85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>89～80</td> <td>89～80</td> <td>84～75</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>79～70</td> <td>79～70</td> <td>74～65</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>69～60</td> <td>69～60</td> <td>64～</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>59～</td> <td>59～</td> <td>未受験</td> </tr> </tbody> </table>	評価	出席率	筆記試験	実技試験	A	100～90	100～90	100～85	B	89～80	89～80	84～75	C	79～70	79～70	74～65	D	69～60	69～60	64～	E	59～	59～	未受験
評価	出席率	筆記試験	実技試験																					
A	100～90	100～90	100～85																					
B	89～80	89～80	84～75																					
C	79～70	79～70	74～65																					
D	69～60	69～60	64～																					
E	59～	59～	未受験																					
E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。																								

卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>学則第 17 条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。</p> <p>学則第 18 条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。</p> <p>入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) ヨーロッパ音楽専門技術研究所への進学			
(就職指導内容) 面談指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 管楽器リペア技術習得 フランス語			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門	吹奏楽学科 演奏コース 公務員選択	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,268 単位時間	540 単位時間	1,080 単位時間	648 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人の内数	9人	0人	2人	9人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
<p>(概要)</p> <p>各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。</p> <p>演奏を職業とする事を目指すコースであるため、演奏技術・演奏実技に関する科目については個別指導となり、生徒個々の技術・実技レベルに合わせた授業が行われている。公務員選択者は公務員試験合格を目指す科目の修得も合わせて行う。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>																								
成績評価の基準・方法																								
<p>(概要)</p> <p><成績評価基準></p> <p>出席率・筆記試験・実技試験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>出席率</th> <th>筆記試験</th> <th>実技試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>100～90</td> <td>100～90</td> <td>100～85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>89～80</td> <td>89～80</td> <td>84～75</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>79～70</td> <td>79～70</td> <td>74～65</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>69～60</td> <td>69～60</td> <td>64～</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>59～</td> <td>59～</td> <td>未受験</td> </tr> </tbody> </table> <p>E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。</p>	評価	出席率	筆記試験	実技試験	A	100～90	100～90	100～85	B	89～80	89～80	84～75	C	79～70	79～70	74～65	D	69～60	69～60	64～	E	59～	59～	未受験
評価	出席率	筆記試験	実技試験																					
A	100～90	100～90	100～85																					
B	89～80	89～80	84～75																					
C	79～70	79～70	74～65																					
D	69～60	69～60	64～																					
E	59～	59～	未受験																					
卒業・進級の認定基準																								
<p>(概要)</p> <p>学則第17条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。</p> <p>学則第18条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。</p>																								

学修支援等
(概要) 入学前より入学予定者を対象に、特別講義や楽器演奏の個別レッスンを行っている。 入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
4人 (100%)	0人 (0%)	1人 (25%)	3人 (75%)
(主な就職、業界等) 公務員音楽隊			
(就職指導内容) 面談指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 公務員試験			
(備考) (任意記載事項) 卒業生その他3名は科目履修生として本校に在籍している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
7人	3人	42.86%
(中途退学の主な理由) 不登校		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談・家庭訪問		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門	吹奏楽学科 吹奏楽コース 留学選択	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,268 単位時間	540 単位時間	1,080 単位時間	648 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人の内数	2人	0人	2人	6人	8人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																											
<p>（概要）</p> <p>各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。</p> <p>演奏を職業とする事を目指すコースであるため、演奏技術・演奏実技に関する科目については個別指導となり、生徒個々の技術・実技レベルに合わせた授業が行われている。留学選択者は演奏技術・演奏実技の習得とフランス語の修得を合わせて行う。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>																											
成績評価の基準・方法																											
<p>（概要）</p> <p><成績評価基準></p> <p>出席率・筆記試験・実技試験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>出席率</th> <th>筆記試験</th> <th>実技試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>100～90</td> <td>100～90</td> <td>100～85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>89～80</td> <td>89～80</td> <td>84～75</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>79～70</td> <td>79～70</td> <td>74～65</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>69～60</td> <td>69～60</td> <td>64～</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>59～</td> <td>59～</td> <td>未受験</td> </tr> </tbody> </table> <p>E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。</p>				評価	出席率	筆記試験	実技試験	A	100～90	100～90	100～85	B	89～80	89～80	84～75	C	79～70	79～70	74～65	D	69～60	69～60	64～	E	59～	59～	未受験
評価	出席率	筆記試験	実技試験																								
A	100～90	100～90	100～85																								
B	89～80	89～80	84～75																								
C	79～70	79～70	74～65																								
D	69～60	69～60	64～																								
E	59～	59～	未受験																								
卒業・進級の認定基準																											
<p>（概要）</p> <p>学則第 17 条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。</p> <p>学則第 18 条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。</p>																											
学修支援等																											
<p>（概要）</p> <p>入学前より入学予定者を対象に、特別講義及び楽器レッスンをを行っている。入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>																											

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)

(主な就職、業界等)
(就職指導内容) 面談指導
(主な学修成果(資格・検定等)) フランス語
(備考) (任意記載事項)

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース リペア選択				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
	昼		講義	演習	実習	実験	実技
1年		1,134 単位時間	306 単位時間	540 単位時間	288 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人の内数		0人	0人	2人	8人	10人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。 管楽器リペア技術の更なる向上を目指した授業内容となっており、特にリペア実技に直結する科目については個別指導をしている。 技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。

成績評価の基準・方法			
(概要) <成績評価基準> 出席率・筆記試験・実技試験			
評価	出席率	筆記試験	実技試験
A	100～90	100～90	100～85
B	89～80	89～80	84～75
C	79～70	79～70	74～65
D	69～60	69～60	64～
E	59～	59～	未受験
E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 学則第 17 条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。 学則第 18 条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。 卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。			
学修支援等			
(概要) 補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 面談指導			
(主な学修成果（資格・検定等）) 管楽器リペア技術			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門	吹奏楽実務学科 管楽器リペアコース 留学選択					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,134 単位時間	450 単位時間	396 単位時間	288 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
		単位時間/単位					
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人の内数	0人	0人	2人	10人	11人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)																								
(概要) 各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。 ヨーロッパへのリペア留学を目指し、更なる技術及び語学の向上を目的とした授業内容となっており、特にリペア留学は留学に向けて個別指導が行われている。 技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の实務経験・指導経験を踏まえ作成されている。																								
成績評価の基準・方法																								
(概要) ＜成績評価基準＞ 出席率・筆記試験・実技試験																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>出席率</th> <th>筆記試験</th> <th>実技試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>100～90</td> <td>100～90</td> <td>100～85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>89～80</td> <td>89～80</td> <td>84～75</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>79～70</td> <td>79～70</td> <td>74～65</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>69～60</td> <td>69～60</td> <td>64～</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>59～</td> <td>59～</td> <td>未受験</td> </tr> </tbody> </table>	評価	出席率	筆記試験	実技試験	A	100～90	100～90	100～85	B	89～80	89～80	84～75	C	79～70	79～70	74～65	D	69～60	69～60	64～	E	59～	59～	未受験
評価	出席率	筆記試験	実技試験																					
A	100～90	100～90	100～85																					
B	89～80	89～80	84～75																					
C	79～70	79～70	74～65																					
D	69～60	69～60	64～																					
E	59～	59～	未受験																					
E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。																								
卒業・進級の認定基準																								

<p>(概要)</p> <p>学則第 17 条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。</p> <p>学則第 18 条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>入学前より入学予定者を対象に、特別リペア講義を行っている。</p> <p>入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (100%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
(主な就職、業界等) ヨーロッパ音楽専門技術研究所への進学			
(就職指導内容) 面談指導			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 管楽器リペア技術習得 フランス語			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化教養		文化教養専門	吹奏楽実務学科 演奏コース 公務員選択				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,134 単位時間	270 単位時間	540 単位時間	324 単位時間	単位時間	単位時間
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人の内数		0人	0人	2人	11人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																											
<p>（概要）</p> <p>各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。</p> <p>演奏を職業とする事を目指すコースであるため、演奏技術・演奏実技に関する科目については個別指導となり、生徒個々の技術・実技レベルに合わせた授業が行われている。公務員選択者は公務員試験合格を目指す科目の修得も合わせて行う。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>																											
成績評価の基準・方法																											
<p>（概要）</p> <p><成績評価基準></p> <p>出席率・筆記試験・実技試験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>出席率</th> <th>筆記試験</th> <th>実技試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>100～90</td> <td>100～90</td> <td>100～85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>89～80</td> <td>89～80</td> <td>84～75</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>79～70</td> <td>79～70</td> <td>74～65</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>69～60</td> <td>69～60</td> <td>64～</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>59～</td> <td>59～</td> <td>未受験</td> </tr> </tbody> </table> <p>E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。</p>				評価	出席率	筆記試験	実技試験	A	100～90	100～90	100～85	B	89～80	89～80	84～75	C	79～70	79～70	74～65	D	69～60	69～60	64～	E	59～	59～	未受験
評価	出席率	筆記試験	実技試験																								
A	100～90	100～90	100～85																								
B	89～80	89～80	84～75																								
C	79～70	79～70	74～65																								
D	69～60	69～60	64～																								
E	59～	59～	未受験																								
卒業・進級の認定基準																											
<p>（概要）</p> <p>学則第17条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。</p> <p>学則第18条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。</p>																											

学修支援等 (概要) 入学前より入学予定者を対象に、特別講義や楽器レッスンを行っている。 入学後は補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)	0人 (%)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 面談指導			
(主な学修成果 (資格・検定等))			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門	吹奏楽実務学科 吹奏楽コース 留学選択					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,134 単位時間	270 単位時間	540 単位時間	324 単位時間	単位時間 /単位	単位時間 /単位
単位時間/単位							
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人の内数	1人	0人	2人	6人	8人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																								
<p>（概要）</p> <p>各科目の担当教員により、年間授業計画を元に授業が進められている。</p> <p>演奏を職業とする事を目指すコースであるため、演奏技術・演奏実技に関する科目については個別指導となり、生徒個々の技術・実技レベルに合わせた授業が行われている。留学選択者は演奏技術・演奏実技の習得とフランス語の修得を合わせて行う。</p> <p>技術習得に直結する科目の年間授業計画は、実務経験のある教員の実務経験・指導経験を踏まえ作成されている。</p>																								
成績評価の基準・方法																								
<p>（概要）</p> <p><成績評価基準></p> <p>出席率・筆記試験・実技試験</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>出席率</th> <th>筆記試験</th> <th>実技試験</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>100～90</td> <td>100～90</td> <td>100～85</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>89～80</td> <td>89～80</td> <td>84～75</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>79～70</td> <td>79～70</td> <td>74～65</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>69～60</td> <td>69～60</td> <td>64～</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>59～</td> <td>59～</td> <td>未受験</td> </tr> </tbody> </table> <p>E評価の履修は認定しない。 各科目の評価対象についてはシラバスに掲載している。</p>	評価	出席率	筆記試験	実技試験	A	100～90	100～90	100～85	B	89～80	89～80	84～75	C	79～70	79～70	74～65	D	69～60	69～60	64～	E	59～	59～	未受験
評価	出席率	筆記試験	実技試験																					
A	100～90	100～90	100～85																					
B	89～80	89～80	84～75																					
C	79～70	79～70	74～65																					
D	69～60	69～60	64～																					
E	59～	59～	未受験																					
卒業・進級の認定基準																								
<p>（概要）</p> <p>学則第 17 条 課程の修了は、生徒の平素の成績を評価し、かつ学年末において試験の成績及び卒業資格認定のための課題作業等により認定する。</p> <p>学則第 18 条 前条の規定により生徒が本校所定の全課程を修了したと認められるときは、卒業証書を授与する。</p> <p>卒業及び進級認定会議を実施し、会議出席者全員の同意をもって進級及び卒業を認めている。</p>																								
学修支援等																								
<p>（概要）</p> <p>補習授業の実施及び、随時個人指導を行っている。</p>																								

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)	0 人 (%)
（主な就職、業界等）			

(就職指導内容)
(主な学修成果 (資格・検定等))
(備考) (任意記載事項) 在籍者 1 名はフランス音楽留学に伴い本校を休学中。

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由) 退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 中退防止への取組……定期的な個人面談		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
吹奏楽学科	200,000 円	780,000 円	390,000 円	教育充実費 150,000 円 教材費 (入学時のみ) ・管楽器リペアコース 約 250,000 円 ・吹奏楽コース 約 100,000 円
吹奏楽実務学科	200,000 円	780,000 円	390,000 円	教育充実費 150,000 円 教材費 (入学時のみ) ・管楽器リペアコース 約 250,000 円 ・吹奏楽コース 約 100,000 円
修学支援 (任意記載事項)				
学費等納付期日の延長等 (個別対応)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.esa-music.com/school-evaluation.html
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) (主な評価項目) 「教育理念・目的、育成人材像」「学校運営」「教育活動」「学修成果」「学生支援」 「教育環境」「学生の募集と受入」「財務」「法令等の遵守」「社会貢献・地域貢献」 (実施方法) 当該年度内において、1回以上会議を開催する。また年間1回を限りとして、授業や学校行事を適宜視察し、評価や助言に資する機会を設定するものとする。 (体制) 学校関係者評価委員会の構成は3名以上とし、本校の職員以外で次に掲げる者のうちから、学校長が委嘱する。 (1) 本校の同窓会会長 (2) 本校卒業生の業界関係者 (3) 音楽隊業界関係者 (4) 吹奏楽指導業界関係者 学校関係者評価委員会は学校長が招集し、委員長がその運営にあたる。

(評価結果) 評価結果については、評価委員の了承を得て教職員会議にフィードバックし以後の学校運営等に活用すると同時に、本校ホームページ上で公表をする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
総合楽器店	2020年4月 ～ 2021年3月末日	同窓会会長
管楽器修理工房	2020年4月 ～ 2021年3月末日	卒業生の業界関係者
自衛隊音楽隊	2020年4月 ～ 2021年3月末日	音楽隊業界関係者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
http://www.esa-music.com/school-evaluation.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) http://www.esa-music.com/
--